



第17号  
発行・編集 広報委員会  
〒520-1821 マキノ町沢1410  
TEL 27-1132  
令和7年3月吉日

『ごあいさつ』



高島市老人クラブ連合会  
会長 秋永 安次

令和6年度の役員改正によりまして、「高島市老人クラブ連合会会長」の要職をお引き受けすることになりました。

もとよりその器ではありませんが、会員皆様方の温かいご指導とご協力を頂きながら、大任を果たして参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

まずもって、昨年の令和6年元旦には、能登地方において大きな地震が発生し、加えて、9月の豪雨により、未曾有の甚大な災害が発生しました。犠牲になられた方々に、あらためて哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われました方々に対しましてもお見舞い申し上げます、一日も早い復興と、そして、普段の生活が出来るようになります事を、心からお祈り申し上げます。

さて、近年の目まぐるしく変貌する社会情勢や高齢者自身の意識の変化もあり、単位クラブや会員数の激減、更に「新型コロナウイルス感染症」による事業推進の停滞等々により、「老人クラブ

活動」を取り巻く環境は、極めて厳しいものがあります。昨年起こりました災害時におきましても、人と人の繋がりや地域の人とお互いの助け合いや仲間づくりが、いかに大切かを改めて痛感し、「老人クラブ活動」の重要性を再認識させられました。今後の「老人クラブ活動」は、今日までの事業を見直し、時代の変化に対応できる事業の構築が喫緊の課題であると考えます。

私も微力ながら、そのことに向け、努力させて頂く所存ですので、会員皆さま方の格段のご支援とご協力を賜りますとともに、お知恵を拝借させて頂きたく、偏にお願い申し上げます。終わりにあたりまして、会員皆様のご健康とご多幸、そして更なるご活躍を心からご祈念申し上げます。ご挨拶と致します。

一緒に活動して

「新しい出会い」を

見つけてみようでは

ありませんか！



令和6年度

高島市老人クラブ連合会

【役員・評議員名簿】

- 会長 秋永安次 (安曇川支部長)
- 副会長 松村良雄 (朽木支部長)
- 理事 松本文男 (今津支部長)
- 〃 鎌田忠夫 (今津支部長)
- 〃 山原幸男 (朽木支部長)
- 〃 西川良夫 (安曇川副支部長)
- 〃 宮川平 (高島支部長)
- 〃 大塚文廣 (高島副支部長)
- 評議員 赤崎太一郎 (マキノ支部代表兼創造推進員)
- 〃 前川弥嗣 (今津創造推進員)
- 〃 澤田龍治 (朽木創造推進員)
- 〃 竹若孟 (安曇川創造推進員)
- 〃 山本徳樹 (高島創造推進員)
- 事務局 吉原康和 (高島市創造推進員)



高齢者の皆さん!!「老人クラブ」に加入して仲間と一緒に行動してみませんか!!

老人クラブへの入会は、60歳以上の方ならどなたでもご入会出来ます。

少子高齢化社会が著しく進展しています。特に地方では、高齢者ばかりで、若者に頼ることなく、自らが残された人生を送らなければなりません。

高齢者同士の支え合い、励まし合いにより、住み慣れた地域で共に過ごしていくことが大変重要な事です。多くの仲間がいる「老人クラブ」に加入し、残された人生を送ろうではありませんか!!

各事務局連絡先

※お問い合わせは、次の老人クラブ連合会各支部までお気軽にご連絡下さい。

- マキノ支部 (27) 1132 (27) 1129
今津支部 (22) 5200 (22) 9056
安曇川支部 (32) 1944 (32) 1944
高島支部 (36) 8185 (36) 8186
朽木支部 (38) 2630 (38) 2951

主な年間行事等

- 高島市老人クラブ連合会 理事会 5月
高島市老人クラブ連合会総会・研修会 6~7月
高島市老人クラブ連合会
グラウンドゴルフ大会 9~10月
第1ブロッック グラウンドゴルフ大会 10~11月
(大津市、高島市で輪番に担当)
滋賀県老人クラブ大会 11~12月

本年度の活動内容

- 老ク連会員研修会 11月
会員研修旅行 11~12月
高島市長(行政担当課)との懇談会 年1回
高齢者相互支援活動研修会 2月
(場所・長寿社会福祉センター)
高島市老人クラブ連合会 理事会 3月

滋賀県老人クラブ大会が開催される!!

昨年の11月13日(水) 栗東市の栗東芸術文化会館「さきら」において、第63回目となる滋賀県老人クラブ大会が、滋賀県、栗東市等の後援を得て、滋賀県知事(当日は代理)を来賓に迎え、県内各地からのクラブ員の参加のもと「のばそう!健康寿命、担おう!地域づくりを」のテーマで、午後から開催されました。

当日は、功労のあった方々や団体に対し、知事表彰、県老ク連会長表彰等が行われ、その後、日本でただ一人の「お笑い理学療法士」日向亭 葵さんから・・・落語とりハビリを融合して生み出した独自の運動療法「エハリハ」と、笑いを交えた独自の講演をユーモアたっぷりに行つて頂き、笑いの大切さを再認識させて頂き、大変有意義な大会となりました。

◎本大会で「県老ク連会長表彰」を受けられた方。団体は次のとおりです。

- 老人クラブ育成功労者
鈴木 庄十朗さん (安曇川支部)
優良老人クラブ
蛭口老人クラブ豊友会(マキノ支部)

会員研修会を開催!!

昨年の7月9日(火) 観光物産プラザにおいて、市内5支部約50名の参加のもと、令和6年度の「老ク連会員研修会」を開催しました。

当日は、最近、被害が増加している「高齢者の特殊詐欺」・「高齢者の交通安全」について、高島警察署より、詐欺被害に遭わない方法や交通安全についての注意事項の説明を受けました。

続いて、市高齢者支援課とキャラバンメイトの皆様から「認知症サポーター養成講座(寸劇を交えて)」を聴講させて頂き、おもしろおかしく過ぎて頂きました。

いずれの講義も、今後の高齢者の日常生活に大変参考となる講座で、有意義な一時を過ごし、実のある研修会が実施出来ました。

市長杯と第一ブロッックグラウンドゴルフ大会を開催!!

「新型コロナウイルス感染症」の心配が少し軽減され、以前と遜色のない環境の中で、「市長杯グラウンドゴルフ大会」と「第一ブロッックグラウンドゴルフ大会」が開催できました。

市長杯は昨年の9月30日(月)、また第一ブロッック(大津市、高島市合同)の大会は10月24日(木)にいずれもマキノピックランドグラウンドゴルフ場において、会員皆様のご理解とご協力を得て開催しました。

市長杯の大会成績は次のとおりです。

- 優勝: 山原 幸男さん(朽木)
準優勝: 角田 泰男さん(朽木)
第3位: 講殿 城明さん(安曇川)
第4位: 杉本 勤さん(マキノ)
第5位: 清水 信太郎さん(朽木)



当日は、終了まで天候に恵まれ、終始お互いに交流を深めると共に、日頃から磨いた技術を遺憾なく発揮できる有意義な大会となりました。



第一ブロック大会の成績は次のとおりです。(高島市老ク連の成績)

- 優勝：山下 茂さん (朽木)
- 準優勝：中村 精三郎さん (高島)
- 第3位：山原 幸男さん (朽木)
- 第4位：松村 良雄さん (朽木)
- 第5位：小林 義夫さん (マキノ)

マキノ支部

『高島市老人クラブ連合会』の行く末に思う!!

全国的な人口減少と少子高齢化は、地域コミュニティや市民生活、地域経済などあらゆる分野に大きな影響を及ぼす中であって、高齢者人口は増加の一途にあります。皮肉にも老人クラブの会員数は減少し、連合会は衰退、組織消滅の危機状態にあります。

マキノ支部では6年前の9単老(319名)が年々脱落する危機的状態から抜け出すため、単老のエリアを越えて入会を可能とする『個人会員制度』や会員証での割引を受ける事が出来る『会員優待制度』を導入する等、会員の増強を図るために鋭意取り組み、支部の活性化に努めて来ましたが成果は見られずに、現在では僅か1集落の70名足らずの会員でマキノの灯りを消さないためマキノ支部を死守しています。

担当部局を交えた「活性化検討委員会」での検討においても妙案を導き出す事は出来ず、弱体化した連合会の力量だけでは到底活性化の見込みが立ちません。

そこで、頼みの綱と考えたのが高島市が進める

『住民自治協議会』です。

つまり、『高島市住民自治協議会』が目指す安心・安全で暮らしやすい地域をつくる活動を成就させる原動力になるのは、高齢者の豊富な知識・経験・技術であると信じ、町内全集落の区・自治会長と連携して新生老人クラブを誕生させられないものかと考え、あらゆる機会に具申を重ねて参りました。

私が考える高齢者の結集による「郵を明るく楽しくする会(仮称)」は、「老人クラブ」と「住民自治協議会」双方の「救世主」になるに違いないと思っています。

また老人クラブ再興の道は、ここにこそあるものと考えます。

『高島市老人クラブ連合会』も『高島市住民自治協議会連絡会議』に包括する方向で進めるのが、ベストでないにしてもベターではないでしょうか。少子高齢化と人口減少が進む高島市において、人口の多数を占める老人のパワーの活用がなければ成就する事もなく、持続可能な『住民自治協議会』の実現も叶わないものと思つからず。

目指すところは、集落内の自治活動、つまり美観の維持・文化の伝承・住民の安全安心を守る取り組み等、身近に課題が山積される中で老人の知識とパワーを発揮し、活躍できる居場所づくりです。私達が、地域に共生することで自らの健康寿命を延ばしながら、後世に残る大きな仕事【地域コ



ミニニティの振興を達成」に繋がり、老人(生き甲斐を拓き健康寿命を延伸)、集落(持続可能な地域の実現)、行政(医療&介護費用削減)の「三方よし」の方策と考えます。

今津支部

令和6年度事業活動などを顧みて!!

令和6年度も既に三四半期が過ぎました。当今津支部においては、年度当初に計画しました事業活動は予定通り実施することが出来ました。しかし、前年度より一クラブが連合会を退会し、活動への参加者が減少し、少人数での活動ではいささか盛り上がりがなくなってきました。残念な思いでいっぱいです。

今や「人生百年時代」と言われています。高島市においては、三人に一人以上が高齢者であり、高齢化はますます進行する中で高齢者を取り巻く社会環境は厳しい状況にあると感じています。

人口の三分の一以上の高齢者自身が地域社会の一員として支え、支えられて生活できることが大切であり、「健康長寿」「介護予防」「社会参加」等の推進が充分に図れる様に努めることが大事になると思っています。

そのためには、行政と地域生活者がより一層の連携強化に努めることが必要であると思つています。





朽木支部

「くつき米まつり」に参加して!!

「くつき米まつり」は、道の駅朽木新本陣で去る10月26日(土)に開催され、朽木支部の会員も多数参加しました。

朽木地域住みよいまちづくり推進協議会(通称「すままち朽木」)が主催し今年で2回目。

「朽木の新米を思いきり楽しもう」がテーマで、米の食べ比べや販売、米の加工品として朽木名物鯖ずし、栃餅ぜんざいぼた餅の販売などを中心にマルシェ、キッチンカーなどで、飲食を楽しむコーナーなど多くの屋台が軒をならべました。

また、演芸や音楽のイベントもあり、地域の人々はもちろん、市内や若狭、大津などたいへんな人出で、まつりは盛り上がりました。

その中で朽木支部は、わら細工の体験ブースを担当して、しめ縄やリース作りを体験してもらいました。特に子供とお母さんがリース作りを楽しんでいたのが印象的でした。

さらに、多くの朽木支部会員が出店したり、各所でスタッフとして活躍するなど、老人クラブの参加が欠かせないイベントでもありました。



安曇川支部

『今を生きる!!』

最近、私の身近で起こったことで、同級生の友人が亡くなりました。とても親しくして、毎

日のように会って色々な話を沢山聞いていました。仕事の事・趣味の事・世間の事々々様々なことを、酒のつまみに語り合っていました。ある日「ちょっと検査で入院」といったきり、三ヶ月で帰らぬ人となりました。

訃報を聞いた時は、あまりにも突然で、しかもあつけない、信じられない気持ちでいっぱい、今でも実感がわきません。今どこで何をしているのだろうか?と思う今日この頃です。

私たちの明日は、約束されたものではありません。命があることを、当然として生活しています。この命が、明日あるものではないと知ってはいても(道理では理解していても)亡くなってしまいう事に心から願いません。.....

生きていることが当たり前と思っています。言い換えれば、明日が約束されていないからこそ「今」が大切であり、尊いと言えるでしょう。友人の死は、今の私の命の真実や尊さを教えていると思います。かけがえのない友を亡くし、これから一層「今」を大切に生きたいと思っています。

高島支部

桂二乗落語会盛會裏に終わる!!

去る9月15日(日) 敬老の日の前日に、「伊黒元気会」主催、高島支部後援による落語会を、「伊黒会議所」で、午後1時30分から3時30分まで開催しました。

当日は9月中旬にもかかわらず「酷暑」の中を、落語ファンの会員、一元会員、加入希望の準会員(???)等々が、多数お集まりいただきました。

桂二乗さんは、大御所「桂米二師匠」の門下で、巧妙な話芸と所作で多くのファンをお持ちの落語家です。古典から創作まで大変幅広く活躍されています。

当日は、「古典」を3席も披露頂き、ご参加いただいた皆様も随分楽しんで頂けた様子でした。日本の「古典芸能」である「落語」を、直に聞かせて頂いたと、

多くの参加者から感謝の弁を賜り、主催者(後援の名義貸しでした)が一人としても大変有難いことでした。ご参加頂いた皆さんありがとうございました。

来年度も「敬老の日」頃に「老人のつどい」を企画・開催できれば.....



編集 後記

著しい社会情勢の変貌と少子高齢化の進展、そして、全世界における戦争を始めとする暴動等々。加えて異常気象、頻発する大地震、物価高、疫病の蔓延、人々の意識の変革等、極めて厳しい社会、政治、経済情勢の中、何もかもが大きく様変わりしています。

令和6年になり、数年間人々の恐怖を煽ってきた「新型コロナウイルス感染症」も、ようやく不安感も少し軽減され、以前の生活に戻りつつありますが、不安は完全に払拭されていません。

また、人々の考えも一向に変化なく、高齢者は自身で、若者に頼らない生き方をしなければなりません。元気で楽しく生き抜くには、地域でのお互いの助け合いや支え合い、そして仲間づくりが必要です。

高齢者の多い地方の生活には、近所や仲間同士の助け合いと支え合いがなければ、生活が出来ません!! その受け皿となるのは「老人クラブ」です。ご入会頂き、残された人生、共に助け合いながら、過ぎ去った昔を語り合いながら、残された人生を楽しく送るうではありませんか!! (事務局)